

東北の元気、
日本の元気を
青森から

青森県復興プラン

3月11日の大震災から4か月余、本県が本格的な復興への歩みを着実に進めていくことが、東北の復興、ひいては日本の復興へとつながってきます。県では現在、「生活再建」「産業復興」「インフラ復興」の3つの分野を中心に、「創造的復興」への取り組みを進めています。

命と暮らしを守る〈生活再建〉

1 当面の資金と住宅の確保

一時金の支給(義援金の早期配分、災害弔慰金の支給)、被災された方々に対する一時受入施設や県営住宅等の提供などを行っています。

2 雇用対策の強化

雇用機会の創出、離職者等の職業能力開発の充実、雇用維持対策に取り組んでいます。

3 健康で安心して暮らせる生活環境の確保

被災者の心のケアや子どもたちの就学支援、生活環境の保全を図っています。

暮らしと生業を支える〈インフラ復興〉

県民生活や産業復興を支える要として、また三陸沿岸被災地への物資輸送拠点として、八戸港の本格的な復旧に取り組んでいます。海岸・河川堤防等や漁港施設、農地・農業用施設等の早期の機能回復をめざしています。

おもりの生業復興〈産業復興〉

1 「攻めの農林水産業」の基盤復興

漁船等の取得支援を始めとする水産業や農林畜産業の復興に取り組んでいます。

2 企業活動の維持と早期復興

金融支援の充実など事業活動及び経営安定化の支援を行っています。

3 「とことん元気な観光・輸出産業」の復興

誘客宣伝活動の充実強化や海外との交流促進を図っています。

4 風評被害の防止

風評被害の防止を国に強く求めています。



八戸2号碼頭震災直後



台北駐日経済文化代表処にてリンゴの輸出と台湾からの誘客を要請(6月20日、都内)



現在の八戸2号碼頭

あわせて、他の被災地に対する人的、物的支援を継続し、観光や物産など、東北が元気になるための取組も進め、東北全体の復興に貢献していきます。

また、年内を目途に本県の創造的復興に向けた中長期的な取組の方向性を示す「青森県復興ビジョン(仮称)」を取りまとめるとともに、今回の教訓を踏まえ、防災対策の総点検を行い、年度内を目途に必要な見直しを行います。

東日本大震災からの復興に際しては、この震災を契機として、今までよりも進化した地域社会を形成していくため、私たち一人ひとりに何ができるかを考え、行動していきましょう。

青森県復興プランの具体的な内容は [県庁ホームページ](#) [復興プラン](#) [検索](#)

生活再建・産業復興局 ☎017-734-9580

申吾のほっとコラム

青森県知事 三村 申吾

みんなで行こう、夏祭り

東北の復興のために、できる地域からひとつひとつの光を灯そうと青森DC(アスティネーションキャンペーン)をスタートさせたのは、4月23日だった。

DCのための準備期間から考えると、アスパムでのつつましい式典は、とてもとても小さな光だったが、関係者はみな、「観光」が持つ力を少しでも元気づけたい、つなげたい、という熱い意欲に燃えていた。

4月29日には東北新幹線が50日ぶりに全線復旧し、桜の弘前城で再出発を発信する式典が行われた。青森のためだけではなく、全東北のためにと、連休初日に復旧を間に合わせた工事関係者や鉄道マンたちの懸命な努力と心意気に、JR東日本の清野社長が男泣きした姿に、心から感動した。

全国のJR各社や旅行業界が「がんばろう日本!がんばろう東北!」の合言葉で支えてくれた青森DCも、7月22日に幕を閉じた。しかし、その後、全国の高校生たちが北東北3県に結集し、インターハイというスポーツの祭典で我々を大いに元気づけてくれている。若い元気な姿や声が県内・北東北に満ちているという素晴らしさは、大きな希望の光だ。

そしていよいよ、あおもり五大夏祭りシーズンが始まる。

8月1日、復興の思いを込めての八戸三社大祭が一番手。夜には築城400年、掛け声も幽玄な弘前ねぶた。翌日は東北の夏祭りの大本命、青森ねぶたが続き、4日は高さ23メートル、秋にはソウル出陣の立佞武多。旧盆を挟んで18日からは五車別れが切ない田名部まつりへと至る。

しかし、これだけではない。県内各地に地元の人たちの情熱に守られてきた祭りがある。黒石よされ、野辺地祇園、木造馬市まつり、山車まつり、八幡宮祭典……、本当に地域ごとに大切なお祭りがある。

これまで、今年は青森の夏祭りにおいてくださいと、県外・国外へ発信し続けてきた。町や村が灯す祭りという光にご参加いただいて、復興の灯を大きくして下さいとお願いし続けてきた。

今、県民の皆さんにも改めてお願いしたい。どうか、この夏は県内、いや東北各地の夏祭りに参加してください、見に行ってください、みんなで元気を分かち合ってください。